

1. 基本認識

日本経済の低迷が続く中、東京一極集中が進み、多くの地方が疲弊している。国家財政の破綻が懸念される中、「国が借金をして地方を支える」構図は、いつまでも続けられない。これから地方は、自らの発想と行動で自立し、活性化しなければならない。多くの地方が、その活性化に努力しているが、道半ばである。

地方の活性化に向けた取組みの類型

- 1) 産業振興、産業創出 (例) インバウンドの取り込み
- 2) 食料、エネルギーをはじめ、地産地消、自給自足の実践
- 3) まちづくり、コミュニティ強化、高齢者、外国人、女性の活躍推進
- 4) 人の誘致 住環境、働きやすさ、子育てしやすさなどを整えて
- 5) その他

2. 当委員会の着目点と視察先、視察結果

(1) 着目点

地方の姿は多様であり、その活性化も、地方ごとに多様である。当委員会は、「ネットワークを通じた活性化」、「インバウンド・アウトバウンド両面からの活性化」、「人材の活用」に着目し、以下、視察し研究した。

- 1) 境港市、湯梨浜町（鳥取県） ①漁業、水産加工業 ②北東アジアとの窓口 ③インバウンドの取り込み
- 2) 真庭市（岡山県） ①エネルギーの自給自足の取組み ②CLT（集成材）
- 3) 今治市（愛媛県） ①造船 ②スポーツ（サッカー）と地域振興 ③外部人材の活用 ④タオル業の再生・ブランド化 ⑤日本食研ホールディングス株式会社 ⑥塩田などの地域資源の見直しと再活用
- 4) 淡路市（兵庫県） 企業の地方移転と人材確保（プライミクス）
- 5) 佐倉市ユーカーが丘（千葉県、講演による事例研究） 民間企業が持続可能なまちづくりを実現
- 6) 串本町、新宮市（和歌山県） ①クロマグロ養殖の事業化 ②国内養殖魚の輸出（新事業）

(2) 総括（視察と研究を通じて気付いたこと、感じたこと）

1) 地方に存在する資源は豊富であり、その活用が期待される。

- ①大自然、風景、地理気候、エネルギー源、食材、農林水産資源、文化財、歴史的町並み、空港、港湾など地域資源は、豊富であり多様である。
- ②元気な地域には、その資源を活かしている元気な企業、リーダーが存在し、地域の元気の源になっている。銘建工業（里山）、ユアサ M&B（太陽光）、今治造船（瀬戸内の地の利）、近畿大学水産研究所、食縁（優れた漁場、試験場）、北陽冷蔵（紅ズワイガニ、牛乳）、岡田武史氏（サッカーチームと人脈）、山万（都心通勤圏内の広大な土地）、築野食品工業（紀の川の水）、赤福（歴史的町並み）
- ③多くの地方では、地域資源を必ずしも活かしてきいていない。海外に目を向けた事業欲が少ない。境港や舞鶴など日本海側港湾は北東アジアとの交易に、もっと活かされてもよい。国の画一的な施策は、地方の自発的な奮起を阻害している場合がある。

2) インバウンドは更に伸ばせる。

- ①地方に存在する豊かな資源を活かせば、インバウンドは更に伸ばせる。田舎は魅力に溢れている。
- ②観光産業のスタイル転換、文化財観光へのでこ入れなどが必要である。

3) アウトバウンド（地域資源を活用した輸出や域外への販売）も更に伸ばせる。

世界の水産物需要が伸びているなか、我が国養殖業の優位性を発揮すべきである。地域の良質な農業・漁業などの食材や産品を、世界に販売する意気込みとイノベーションに期待がかかる。

4) “ネットワーク”と“人材”の活用が、インバウンドとアウトバウンドの需要を、更に拡大させる。

- ①都市と地方のネットワーク連携が、インバウンドを継続して拡大させる。広域周遊観光や田舎への体験旅行などに、更に大きな成果が期待できる。関西は、中四国、北陸、東海など「オール&アROUND関西」で、連携することが肝要である。
- ②企業の技術連携、地方と地方のネットワーク連携が、アウトバウンドを拡大させる。新宮市における養殖魚加工輸出事業などに、地方創生の活路が見える。
- ③女性、シニア、外国人など、多様な人材を新たな開発の担い手として育成し、活用できるかが発展の鍵であり、そのための環境整備が大切である。

3. 提言

(1) 「オール&アROUND関西」で、インバウンド倍増を目指そう。

1) 「オール&アROUND関西」は、観光を担う組織を拡充しよう。

- ①大阪観光局、とりわけ MICE 誘致組織の拡充を図るべきである。
- ②府県の枠組みを超えて取り組む「関西国際観光推進本部」には、期待がかかる。
- ③京阪神は、MICE で協力し、更に大きな誘致開発を目指すべきである。

2) 地方の文化や自然、特性など地域資源を見直し、それを十二分に活かそう。

- ①地域の文化や自然、スポーツ、体験、「コト消費」を売り出そう。
- ②文化を大切にし、自ら稼ぐ「文化財観光」への好循環を創ろう。
- ③歴史的町並みの保全について、私権保護とのバランスのあり方を見直そう。
- ④大阪市内各地は、個性を打ち出した地域開発を進め、観光客に多様性を楽しんでもらおう。

3) 観光産業のスタイル転換を図ろう。

- ①「短期間に大量の客をさばく」パッケージ型スタイルに加え、「個々のニーズに応える」個性満足型スタイルを充実させよう。
- ②大型連休を地域別や季節別に分散させ、国内の観光需要を均そう。
- ③コラボレーションやネットワークで、観光のメニューを多様化しよう。
- ④旅行しやすくする施策や若年層に旅行の楽しさを知ってもらう施策などを充実させよう。
- ⑤「民泊」をニューエコノミー実現のチャンスととらえ、大きく、大事に育てよう。

(2) 熱意と技術でアウトバウンドに打って出よう。

1) 地場産品や農水産物を世界に輸出していこう。

- ①関西国際空港を活用し、関西の「食」を輸出する取組みを発展させよう。
- ②農水産物の認証対応など、輸出体制を強化しよう。
- ③境港や舞鶴など、日本海側港湾を通してネットワークを広め、北東アジアの市場を開拓しよう。

2) 6次産業化を進めよう。

日本がリードする、冷蔵、冷凍、包装、衛生管理、輸送などの新技術を用いて、農・水産物の新たな市場を開拓し、地域企業の6次産業化を、ダイナミックに進めよう。

3) デザインカを導入し、地域ブランドを確立しよう。

(3) “ネットワーク”と“人”を活用して、インバウンド・アウトバウンド両方とも伸ばそう！

1) 「オール&アROUND関西」のネットワークを有機的に整備し、人・モノの交流を促そう。

- i. 関西、伊丹、神戸3空港、ローカル空港、諸港湾、道路、鉄路など「**インフラ（ハード整備）**」
- ii. 路線、航路など「**コネクション（結合促進）**」
- iii. アクセス、スピード、接続、運賃、輸送コスト、Wi-Fi 充実など「**利便性向上（ソフト）**」

2) 観光関係者は「オール&アROUND関西」で連携し、インバウンド旅行者に周遊を促し、長期滞在型の観光を目指そう。更に田舎の魅力観光に活かす、都市と田舎のネットワークを強化しよう！

3) 交通や情報の新技術や体系を活用し、新たな市場を開拓しよう。

- ①地域の独自産品に、輸送や情報の新たな技術の導入をはかり、新たな市場を開拓しよう。
- ②地方と地方のダイレクトなネットワークを創り、新たな事業を創造しよう。

4) 地方は人材を育成し、女性、シニア、外国人、若者、新規参入者の活躍の場を創ろう。

- ①地域事業者は、女性の回帰と定着に力を入れよう。
 - i. 東京などに転出した高学歴の女性が働ける「仕事」を創ろう。
 - ii. 子育て環境を整備し、子育てする女性が働きやすい「環境」を創ろう。
- ②国は、地域事業者が外国人労働者を受け入れやすくできる各施策と環境整備を推進すべきである。

5) 地域の民間経営者は、地域発展のためのネットワークの開発と事業開発のリーダーとなろう。

6) 地域のエネルギーは、まず地域で賄おう。

- ①地域の資源を利用して、バイオマス発電、太陽光発電、小水力発電などの、再生可能エネルギーの利用をますます推進し、地球温暖化対策にも貢献しよう。
- ②地熱発電やメタン発酵のエネルギー活用など、新エネルギーの開発を進めよう。

7) 人口減少高齢化には、コンパクト化やイノベーションなど、知恵で対応しよう。

人口減少高齢化には、町や集落を賢くコンパクト化することや、技術イノベーション（介護ロボット、自動運転システムなど）を実行するなど、知恵と創意工夫で対応しよう。

4. 今後の検討事項

以下の点について、更なる研究や検討を進めるべきである。

- (1) **地方分権の推進** 地域の自主性が発揮できる国と地域の新しい関係づくりを推進する。
- (2) **大阪の都市のあり方** 日本、関西のなかでの大阪のあり方と役割を考える。
- (3) **海外からの人材受け入れ** 一定要件のもとでの定住外国人の受け入れを図る。
- (4) **国際医療貢献** 訪日外国人や難病に対する医療を提供し、外国人医師の研修も実施する。